

2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）の結果・分析

質問紙の結果から、全国の割合と比較して±3ポイント以上の差がある主な項目について以下に示します。

（1）小学校

【児童質問紙】

《授業等について》

学習状況について〔①、②（関連するグラフの項目）〕

（分析）

- ・授業の中で分からないことがあった場合に、「先生に尋ねる」と回答した児童が全国に比べて多い状況にあります。また、「自分で調べる」と回答した児童は、概ね平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動を行った」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

（改善ポイント）

「先生に尋ねる」等、他者に尋ねると回答した児童の疑問点をそのままにせず解決しようとする態度を大切にするとともに、自らの力で探究する力を育成するため、新たな課題につながるような投げかけを行い、学習意欲ややる気を育む観点からの指導を進めていくことが必要です。

例えば、児童が、分からないことを尋ねてきた時は、課題を解決していこうという児童の意欲や態度をまずは大いに褒めることが大切です。その上で、先生が教えることで全てを解決させるのではなく、自分で問題を解決していくための方法（本やインターネットで調べる等）を児童に示すことも大切です。

授業の進め方について〔③〕

（分析）

- ・「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答した児童や、「授業の最後に学習内容を振り返る活動がよく行われていたりした」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

（改善ポイント）

児童が目標（めあて・ねらい）の提示や授業の最後に学習内容を振り返る活動の実施を意識できるよう工夫し、授業の見通しを立てて主体的に取り組むことができるような授業づくりを行う必要があります。全国の先進事例も参考にしながら充実を図ることが望まれます。

例えば、「四角形の面積の求め方を使って三角形の面積を求められるだろうか」のように、児童が授業の見通しを持てるような目標（めあて・ねらい）を提示することが大切です。振り返る活動では書き出しやキーワードを与えて、分かったことを児童が自分の言葉で書く時間を設定するなど、目標に沿ったものとなるよう学習内容を工夫することが大切です。また、授業のねらいについては、振り返らせるべき内容を踏まえて課題をつくる必要があります。

国語科の学習について〔④〕

(分析)

- ・「国語の授業が好き」と回答した児童や、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことに難しさを感じていない」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

国語の授業において、引き続き普段から目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりして表現する活動を取り入れる授業の工夫が必要です。児童の実態に応じて書く量を徐々に増やすなど、定期的、継続的な「書く」場面の設定が必要です。

例えば、目的に応じた本や資料を児童が自ら選ぶ機会を設けたり、必要な情報を付箋などを用いて取り出し、内容を分類したり関係付けたりして文章にまとめる機会を設定することも大切です。

総合的な学習の時間について〔⑤〕

(分析)

- ・「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

児童の主体的な活動を位置付けた授業を行うことが必要です。例えば、【課題の設定】→【情報の収集】→【整理・分析】→【まとめ・表現】の探究のプロセスを意識した問題解決的な授業になるよう工夫が必要です。

① 授業での質問について

- 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。〔質問番号(49)〕
 (「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねに行く」と回答した割合)
 三重県：28.4% (全国：24.5%) +3.9



② 授業でのグループ活動について

- 5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか。〔質問番号(41)〕
 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)
 三重県：72.4% (全国：77.3%) -4.9



③ 授業の進め方について

- 5年生までに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。〔質問番号(44)〕
 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)
 三重県：75.7% (全国：82.0%) -6.3

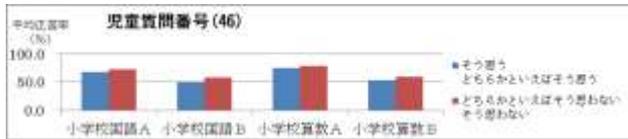


- 5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。〔質問番号(45)〕
 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)
 三重県：67.1% (全国：71.9%) -4.8

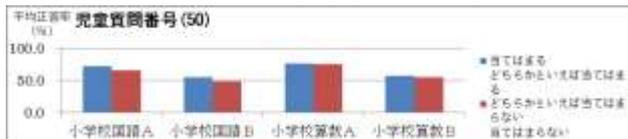


④ 国語科の学習について

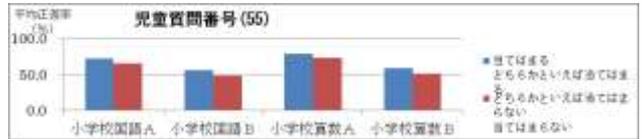
○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。〔質問番号(46)〕
 「**そう思う**」「**どちらかといえば、そう思う**」と回答した割合
 三重県：69.6%（全国：63.4%） +6.2



○国語の勉強は好きですか。〔質問番号(50)〕
 「**当てはまる**」「**どちらかといえば、当てはまる**」と回答した割合
 三重県：55.8%（全国：59.2%） -3.4

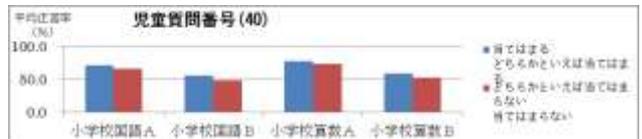


○国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。〔質問番号(55)〕
 「**当てはまる**」「**どちらかといえば、当てはまる**」と回答した割合
 三重県：56.6%（全国：61.4%） -4.8



⑤ 「総合的な学習の時間」について

○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔質問番号(40)〕
 「**当てはまる**」「**どちらかといえば、当てはまる**」と回答した割合
 三重県：53.3%（全国：63.8%） -10.5



《家庭学習について》

(分析)

・「**家での復習を行っている**」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

本県では、家で復習に取り組む割合が全国に比べて低く、5割未満となっています。児童が主体的に学校の授業の復習をするための手立てについて、学校全体で話し合い、共通認識を持って、組織的・計画的に取り組むことが必要です。例えば、家庭学習に使える課題のプリントを学校全体で共有し、全教員が活用できるようにしたり、家庭学習の進め方や解き方の例を示すなど、具体的な課題の与え方について研修し話し合ったりするなど組織的に取り組むことが大切です。

○家で、学校の授業の復習をしていますか。〔質問番号(24)〕
 「**している**」「**どちらかといえば、している**」と回答した割合
 三重県：48.7%（全国：54.0%） -5.3



《地域との関わりについて》

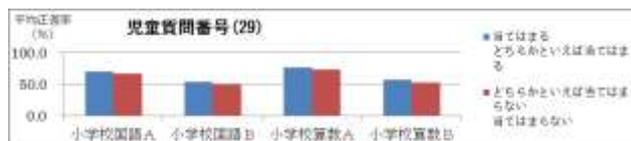
(分析)

・「**地域の行事に参加している**」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

本県が展開している「**みえの学力向上県民運動**」の一環として、学校・家庭・地域が一体となり、児童が主体的に参加できる地域行事を積極的に活用することが重要です。例えば、教材「**三重の文化**」などを活用し、児童が自分の住んでいる地域に興味・関心が持てるような学習を設定していくことも大切です。

○今住んでいる地域の行事に参加していますか。
 [質問番号(29)] 「当てはまる」「どちらか
 といえば、当てはまる」と回答した割合
 三重県：73.2%（全国：68.0%） +5.2



【学校質問紙】

《授業等について》

授業の進め方について [①]

(分析)

- ・授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示したり、授業の最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れたりした学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

授業において、児童が見通しを持って学び、自らの学びを振り返り、わかる喜びと学ぶ楽しさを感じられることが児童の主体的な学びにつながります。

各学校において、統一した授業の展開等について職員間で共通認識を図り、身に付けさせたい力を明確にして、適切に評価し授業改善につなげる必要があります。

例えば、「めあて」「振り返り」のプレートを作成し、全学級の授業で黒板に貼るといった取組等を、全校体制で実施することも大切です。

全国学力・学習状況調査等の学校全体での活用について [③]

(分析)

- ・本県では、全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、全国を大きく下回っている状況です。

(改善ポイント)

全国的に平均正答率が高い学校では、調査結果を教育指導の改善に生かしている割合が大きく、本県においても、全国学力・学習状況調査等の活用が必要です。

少人数指導について [④]

(分析)

- ・本県の調査結果では、算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数指導を行った学校は、1割にも達していない少ない状況であることから平均正答率との明らかな関連は見られませんが、少人数指導の充実に向け、グループの編成の工夫、グループに応じた指導内容の精選、教員の連携等の工夫改善に取り組む必要があります。

(改善ポイント)

わかりたい、できるようになりたいという児童の思いを実現するためにも、単に学級をいくつかのグループに分けるのではなく、指導内容や児童の習熟の程度に応じ、目的を明らかにした少人数指導を行う必要があります。また、【一斉指導】→【習熟の程度に応じた指導】→【一斉指導】などの指導の形態の工夫も必要です。

国語・算数・総合的な学習の時間の指導及び言語活動の充実について〔⑤～⑧〕

(分析)

- ・国語の指導において、発展的な学習の指導や様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・本県では、算数の指導について、補充的な学習の指導の実施状況、実生活における事象との関連を図った指導の実施状況と、平均正答率との明らかな関連は見られませんが、全国的な分析では、実生活における事象との関連を図った学校は、算数Aで平均正答率が高い傾向が見られることから、今後、指導内容の改善・充実が必要です。
- ・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・言語活動に重点を置いた指導計画を作成したり、国語だけでなく各教科等においても学校全体として言語活動の充実に取り組んだりした学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

実生活を送るうえで不可欠であり、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を確実に身に付けることができるよう、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の全てにおいて、それぞれの教科等で児童が身に付けるべき力を明確にするなど、言語活動の充実を学校全体で系統的、組織的に図ることが必要です。また、教科書を通じた学習に留まらず、学んだことを生かし、活用する発展的な学習を工夫して取り入れることも必要です。

例えば、国語科の授業においては、年間の見通しの中で取り上げる指導事項を確定したマトリックスを作成することが大切です。また、目的に応じた本を児童が自ら選び、内容を友達に説明するなどの活動を取り入れた授業を積極的に行うことも有効です。

算数においては、生活の中にある事象を授業で取り上げるなどして、教科の目標である実生活の事象について見通しを立てて考え表現する力を育てることが必要です。

授業研究を伴う校内研修の実施回数について〔⑨〕

(分析)

- ・授業研究を伴う校内研修を、前年度11回以上実施した学校は全国を上回っており、本県では、国語Bで実施回数が多いほど平均正答率が高い傾向が見られます。なお、小学校では、回数による効果が明確でない状況にあり、研修内容を充実することが必要です。

(改善ポイント)

教科の授業研究を校内研修の重点課題の1つとして位置付け、教員が相互に授業を参観し合う機会を増やすとともに、校内研修の進め方の改善を図る必要があります。

例えば、年間を通して全ての教員が教科の研究授業を実施し、教員全員が参観する場合、学年担当や教科担当の教員が参観するなど、参観方法や授業後の校内研修会の持ち方を柔軟に計画し、教科の授業研究の活性化を図ることが考えられます。また、教科の授業研究のテーマについて、「言語活動の充実」「指導過程や発問・板書等の指導方法の工夫・改善」「学習評価の在り方」など、学年や教科の枠を越えて設定することも考えられます。

校長の見回りについて [10]

(分析)

- ・校長が週に2回以上授業を見回った学校は、平均正答率が高い傾向にあります。

(改善ポイント)

組織的な授業改善や、教員の指導力の向上を図るため、日々の授業を校長が参観し指導・助言することが必要です。

例えば、児童の授業の様子について日常的に教員全体で対話し、組織的な授業改善の取組の促進や教員の指導力の向上につなげることが大切です。そのためにも校長が授業を参観し、教員の指導の状況や児童の様子を知り、児童の状況について日常的に対話できる学校の風土を作っていくことが大切です。

① 授業の進め方について

- 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れ了吗か。〔質問番号(28)〕
 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：91.3%（全国：96.9%） -5.6



- 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ了吗か。〔質問番号(29)〕
 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：76.3%（全国：91.6%） -15.3



② 将来就きたい仕事や夢を考えさせる指導について

- 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。〔質問番号(33)〕
 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：65.3%（全国：72.0%） -6.7



③ 全国学力・学習状況調査等の学校全体での活用について

- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。〔質問番号(51)〕
 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」と回答した割合

三重県：75.5%（全国：88.9%） -13.4



④ 少人数指導について

- 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにしましたか。〔質問番号(53)〕
 「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合

三重県：8.4%（全国：29.0%） -20.6



- 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。〔質問番号(54)〕
 「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合

三重県：5.2%（全国：21.4%） -16.2

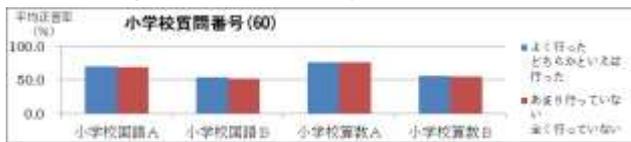


⑤ 国語の指導について

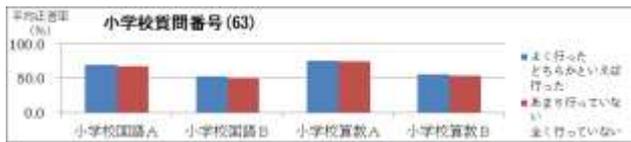
○調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。〔質問番号(59)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：65.9%（全国：70.9%） -5.0



○調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。〔質問番号(60)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：31.3%（全国：40.7%） -9.4

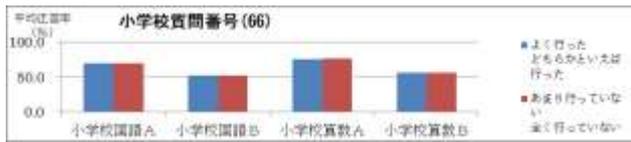


○調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。〔質問番号(63)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：76.6%（全国：83.2%） -6.6

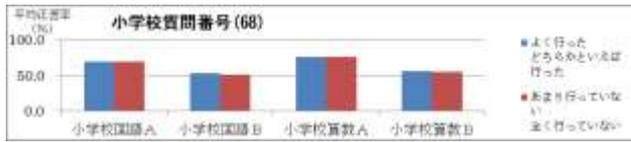


⑥ 算数の指導について

○調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。〔質問番号(66)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：82.4%（全国：89.5%） -7.1



○調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。〔質問番号(68)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：55.1%（全国：66.2%） -11.1



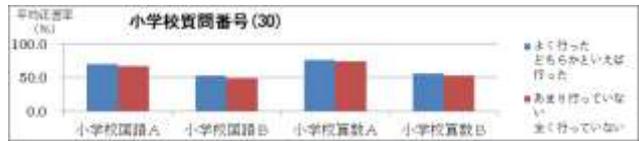
⑦ 「総合的な学習の時間」の指導について

○調査対象学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。〔質問番号(42)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：64.1%（全国：79.7%） -15.6



⑧ 言語活動の充実の取組について

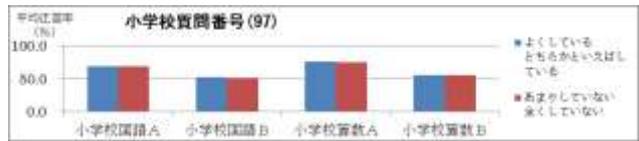
○調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。〔質問番号(30)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）
三重県：81.9%（全国：90.2%） -8.3



○言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか。〔質問番号(95)〕（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）
三重県：82.6%（全国：88.2%） -5.6

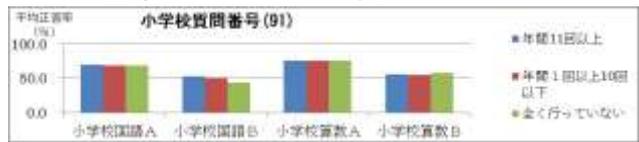


○言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。〔質問番号(97)〕（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）
三重県：83.5%（全国：90.3%） -6.8



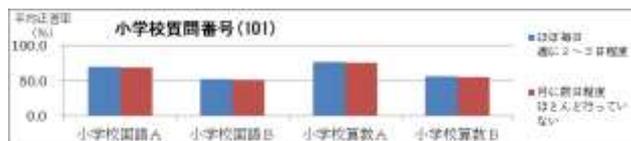
⑨ 授業研究を伴う校内研修の実施回数について

○授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。〔質問番号(91)〕（「11回以上」と回答した割合）
三重県：44.1%（全国：38.3%） +5.8



⑩ 校長による授業の見回りについて

○校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。〔質問番号(101)〕
 (「ほぼ毎日」「週に2～3日」と回答した割合)
 三重県：84.5% (全国：91.6%) -7.1



《家庭学習について》

(分析)

- ・家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った学校の割合が、全国に比べて低く、効果が表れにくい傾向が見られます。

(改善ポイント)

児童の学習意欲につながるよう家庭学習と授業の関係を見直し、年度初めの校内研修等で、学校としての家庭学習の課題の与え方について共通認識を図ることが必要です。

例えば、漢字や計算などのドリル学習、教科書の音読などに加えて、県や市町の教育委員会作成のワークシートの活用や、自分で課題を考えて行う自主学習ノートの活用なども有効です。その際には、自分で主体的に進められるよう、具体的に例を挙げて事例指導を行うことが大切です。また、児童が行ってきた家庭学習については必ず点検するなどの見届けと励ましが必要です。

家庭へは学校などで作成した「家庭学習のてびき(各学年版)」を配付して連携を図り、学期末に取組の成果と課題を検証するなど、定期的に家庭への啓発を行っていくことが大切です。

さらに、「みえの学力向上県民運動」で作成した「読書習慣・生活習慣チェックシート」等を活用した取組を行うことも有効です。

○調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(国語/算数共通)〔質問番号(85)〕(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)
 三重県：81.4% (全国：85.4%) -4.0



《読書について》

(分析)

- ・「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた」と回答した学校は、全国に比べ多くなっていますが、教科の学びにつながる読書までには至っていない状況があります。

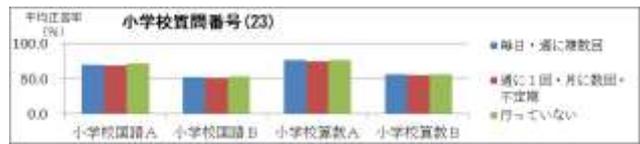
(改善ポイント)

一斉読書の回数は多いものの必ずしも学力の向上にはつながっていないことから、読むテーマの設定や本の選び方の指導を行うなど、取組方法の充実を図ることが必要です。

また、全国的には、小中学校とともに学校図書館・室や地域の図書館を活用した回数が多い児童生徒は、平均正答率が高い状況にあることから、朝読が学校図書館等の活用へとつながっていくような指導が大切です。

例えば、読書カードを作り、定期的に児童の読書内容を教員が確認して、アドバイスをしたり、児童の興味・関心を高めるために、各教科の教材に関連する本を児童に紹介し、皆に読んでほしい本を置く、「おすすめコーナー」を設置したりすることで、主体的な読書につながる環境を整えていくことが大切です。

○調査対象学年の児童に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。
 [質問番号(23)]
 (「毎日」「週に複数回」と回答した割合)
 三重県：76.6% (全国：61.1%) +15.5



《地域の人材の招聘や施設の活用について》

(分析)

- ・地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている学校は全国に比べて多くなっていますが、地域人材をどの授業にどのような目的（学力の育成、豊かな心の育成、体力の育成 等）や計画（連続講座、単独講座）で招聘するかについては、学校によって多様であり、行っている学校と行っていない学校とでは平均正答率の差が見られない状況です。

(改善ポイント)

地域の人材の効果的な活用については、全国では学力との一定の相関が見られることから、招聘する講師に「ねらい」を伝えるとともに、児童にも目的を明示し、学習への関心・意欲を高めることが必要です。さらに、招聘後は、人のつながりを大切にして、以後のよりよい活動につなげていくことが必要です。

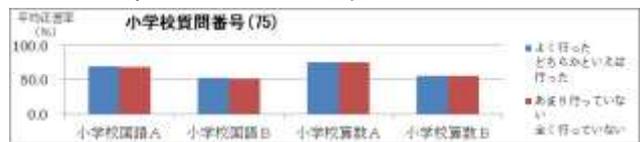
例えば、お礼の手紙を書くことで言語活動を位置付けたり、学んだことをきっかけに、さらに調べ、まとめて発表する活動に発展させたりすることが有効です。

また、本県では、4月に三重県総合博物館「MieMu」が開館しました。新しい博物館をはじめ、地域にある施設を積極的に活用することが望まれます。活用にあたっては、事前に教員が博物館等を見学に行き、自分の目で確かめ、学習する上で活用していくことの良さを実感し、それを児童に伝えていく姿勢も大切です。施設が遠隔地にしかない学校や小規模の学校は、負担軽減のため、近隣の学校と合同で見学に行くなど、工夫することも大切です。

○調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。 [質問番号(73)]
 (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)
 三重県：81.9% (全国：76.3%) +5.6



○調査対象学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。 [質問番号(75)]
 (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)
 三重県：24.2% (全国：37.4%) -13.2



(2) 中学校

【生徒質問紙】

《授業等について》

(分析)

- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と回答した生徒は、全国に比べて多い状況にあり、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「生徒の間に話し合い活動をよく行っている」と回答した生徒は、全国に比べて多い状

況にあり、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

- ・全国では、「授業のはじめに、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答した生徒は、平均正答率が高い傾向にあります。本県では、示されていたと回答した生徒が全国と比べて少なく、全ての教科で平均正答率との関連も見られません。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだ」と回答した生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

授業において、話し合う活動や自分の意見を発表する活動、課題解決のための自主的な調べる活動等を計画的に設定することが、生徒の学習意欲を育み、主体的な学習につながると考えられます。これらの活動を授業展開に適切に位置づける工夫が必要です。

例えば、「めあて提示」と「振り返る活動」では、それぞれ黒板に提示できるプレートを作り、授業の中でいつでも確認できるようにしておくことが大切です。

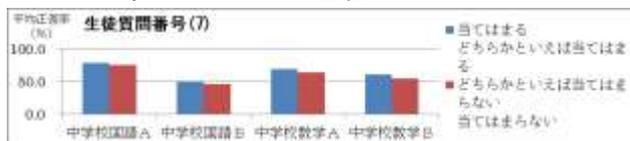
また、授業の中に、グループ別の話し合い活動を設定し、自らの考えを整理して、主体的に学び合う授業にすることが大切です。その際、リーダーを決めて、話し合いを進めさせたり、グループ相互に内容を交流させたりして、話し合い活動を効果的にする工夫も必要です。

① 授業での考えの発表や話し合い活動について

○ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。 [質問番号(7)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

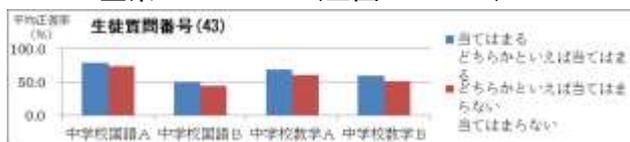
三重県：53.5% (全国：48.6%) +4.9



○ 1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。 [質問番号(43)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：80.1% (全国：75.3%) +4.8



② 授業の進め方について

○ 1、2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。 [質問番号(44)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：62.1% (全国：71.5%) -9.4

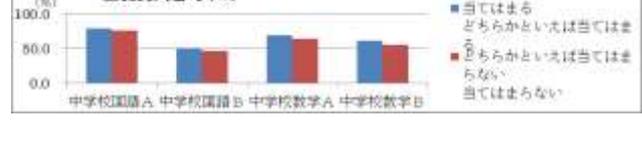


③ 「総合的な学習の時間」について

○ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 [質問番号(40)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：46.2% (全国：54.8%) -8.6



《基本的な生活習慣及び家庭学習について》

(分析)

- ・普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビ、ビデオ・DVD、テレビゲームの視聴等や、携帯電話やスマートフォンでの通話やメールの時間が短い生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間が長い生徒、土曜日

や日曜日など学校が休みの日の1日当たりの勉強時間が長い生徒、家で学校の授業の復習をしている生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

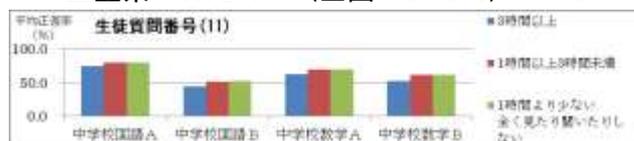
(改善ポイント)

テレビ等の視聴やスマートフォン等については、家庭で約束を決めるなどの計画性が必要です。また、学校においても、生徒会活動で自らの生活について見直す機会としてルールを決めるなどの取組も有効です。

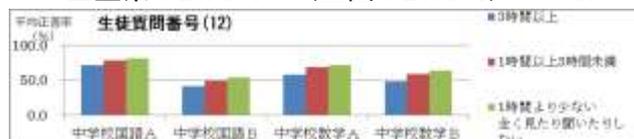
例えば、テレビ等の視聴やスマートフォン等の使用については、学校通信・学級通信等で各家庭に啓発し、課題を共有したり、PTA等と連携してルールを作成したりすることが大切です。また、PTAと連携し、「みえの学力向上県民運動」でキャンペーン期間を設定して取り組んだ、「読書習慣・生活習慣チェックシート」等を活用した取組を継続して行うことが大切です。

① 基本的な生活習慣について

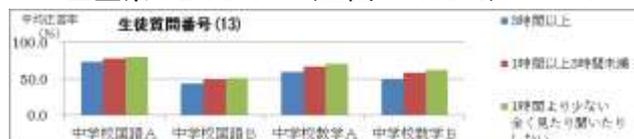
○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲーム除く） [質問番号(11)]
 （「3時間以上」と回答した割合）
 三重県：35.2%（全国：31.5%） +3.7



○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。 [質問番号(12)]
 （「3時間以上」と回答した割合）
 三重県：24.0%（全国：20.3%） +3.7

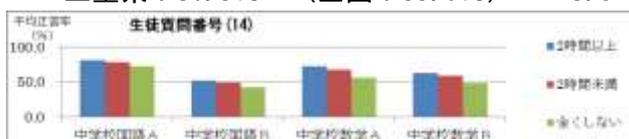


○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）。 [質問番号(13)]
 （「3時間以上」と回答した割合）
 三重県：24.5%（全国：19.8%） +4.7

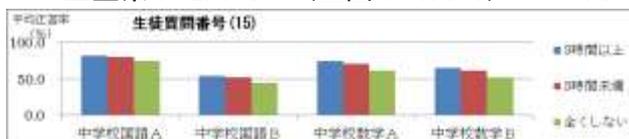


② 家庭学習について

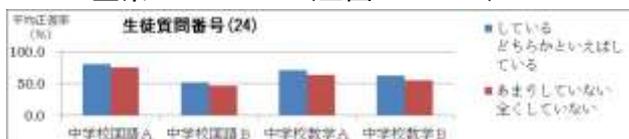
○ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） [質問番号(14)]
 （「2時間以上」と回答した割合）
 三重県：31.3%（全国：35.1%） -3.8



○ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師含む） [質問番号(15)]
 （「3時間以上」と回答した割合）
 三重県：12.6%（全国：16.9%） -4.3



○ 家で、学校の授業の復習をしていますか。 [質問番号(24)] （「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）
 三重県：45.5%（全国：50.4%） -4.9



《家庭・地域について》

(分析)

- ・「家の人とは授業参観や運動会などの学校行事に来る」と回答した生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒は、全ての教科で平均正答

率が高い傾向が見られます。

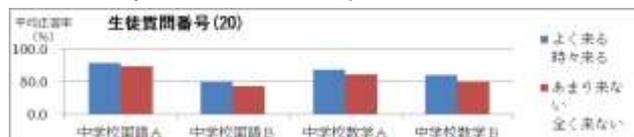
(改善ポイント)

保護者や関係者が学校行事に積極的に参加したり、生徒が地域の行事に参加し活動したりする機会が充実しているなど、家庭や地域が学校教育に関心を持ち、学校・家庭・地域が連携・協働する体制の充実は、学力向上につながると考えられます。

なお、行事を行うに当たっては、様々な事情で参加できない家庭への配慮と工夫が必要です。

例えば、地域の清掃活動や、福祉施設を訪問した活動、地域での職場体験活動など、学校・家庭・地域が連携・協働し、生徒の主体性を重視した教育活動を実施していくことが大切です。

①家の人（兄弟姉妹除く）は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか。 [質問番号(20)]
（「よく来る」「時々来る」と回答した割合）
三重県：78.8%（全国：83.1%） -4.3



②今住んでいる地域の行事に参加していますか。 [質問番号(29)] （「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」といえば、当てはまる」と回答した割合）

三重県：50.4%（全国：43.5%） +6.9



【学校質問紙】

《授業等について》

授業の進め方について【①】

(分析)

- ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学校は全国と比べて少ない状況です。

(改善ポイント)

各学校において、統一した授業の流れについて職員間で共通認識を図り、生徒に付けさせたい力を明確にし、適切に評価する必要があります。また、授業の冒頭での目標の提示や授業の最後での学習内容を振り返る活動を効果的に活用するための工夫について、全国の先進事例も参考にしながら全教員で検討し、充実を図る必要があります。

例えば、【めあての確認】→【学習課題について自分で考える】→【グループで交流する】……というように、1時間の基本的な授業の流れを明確にして、学校全体で共有することが大切です。また、めあてと振り返りの時間を確保するとともに、話し合い活動を取り入れ、その目的を黒板に掲示するなど具体的な手立ても必要です。

また、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を提示し、授業の最後に学習内容を振り返る活動を取り入れた1時間の授業の板書を写真にとりファイリングして共有するなどし、教員間で統一した授業の流れの共通認識を図ることも有効です。

言語活動の充実について〔②〕

(分析)

- ・各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている学校、言語活動に重点を置いた指導計画を作成している学校、及び言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

実生活を送るうえで不可欠であり、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を確実に身に付けることができるよう、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の全てにおいて、それぞれの教科等で生徒が身に付けるべき力を明確にするなど、言語活動の充実を学校全体で組織的に図ることが必要です。また、教科書を通じた学習に留まらず、学んだことを生かし、活用する発展的な学習を工夫して取り入れることも必要です。

例えば、校内研修等において、学校全体で組織的によりよい言語活動を設定し授業の展開をテーマとした授業研究を行い、授業改善に結びつけることが必要です。

国語の指導について〔③〕

(分析)

- ・本県では、補充的な学習の指導を行っている学校の割合は、全国と比べて低く、平均正答率においても、成果に結びついていない状況が見られ、内容や方法等について工夫する必要があります。
- ・発展的な学習の指導を行っている学校は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行っている学校は、国語Bで平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

補充的な学習の指導については、生徒の実態を踏まえて、より効果的な授業形態であったか等の視点から検討し、改めて指導方法の充実を図る必要があります。その際には、全国での先進事例も参考にしながら、各学校の状況に合わせて、ボランティアを活用したり、ワークシートを活用した習熟度別活動を用いたりするなどの工夫とともに、効果についての検証を行う必要があります。

また、発展的な学習を取り入れていくことは、生徒の学習意欲を生み出し、主体的な学習につながる効果が期待できます。

その他の指導について〔④〕

(分析)

- ・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数指導を行い、習得できるようにした学校や、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱っている学校は、全国より少なく1割程度に留まっています。また、全国的に

は、数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行った学校は、数学A・Bともに平均正答率が高い傾向が見られますが、本県では平均正答率との関連が見られず、工夫が必要です。

- ・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っている学校は、概ね平均正答率が高い傾向にあります。
- ・教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります。
- ・「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります。

(改善ポイント)

数学の授業での習熟の程度に応じた指導の実施については、生徒のわかりたいという気持ちを大切にし、グループ編成の工夫、グループに応じた指導内容の精選、指導に当たる教員の連携等の工夫改善を行い、少人数指導の充実に取り組む必要があります。

また、地域や社会で起こっている問題や出来事をタイムリーに題材として学習を行うことは、これからの時代を生きていく生徒にとって大切です。例えば、総合的な学習の時間等に自ら「気づき・考え・実行する」という視点での学習活動を展開することも大切です。

組織的な研修や取組等について [⑤]

(分析)

- ・授業研究を伴う校内研修を行っている学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行ったと回答した学校は全国に比べて少ない状況です。
- ・教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行った学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります。
- ・校長が週に2回以上授業を見回っている学校ほど、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります。
- ・長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した学校は、数学A・Bで平均正答率が高い傾向にあります。

(改善ポイント)

本県は、授業研究を伴う校内研修会を実施する回数が全国に比べて多くなっていますが、回数による効果はあまり見られない状況があります。教科の授業研究の強化を図り、年間を通して、めざす生徒像に迫る継続的な話し合いが必要です。また、小中学校が連携し、授業参観等の交流の機会を増やしたり、教科を絞って定期的に合同研修会を持ったりするなど、小中学校の9年間を見通した児童生徒の学力や学習状況等を共有する取組も大切です。

全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対する働きかけの方法について、学校全体で検証し、具体的で実効性のあるものとする中で、家庭・地域の協力を得ながら、生徒の学力の育成が図られるよう改善する必要があります。

組織的な授業改善や、教員の指導力の向上を図るため、日々の授業を校長が参観し指導・助言することが必要です。

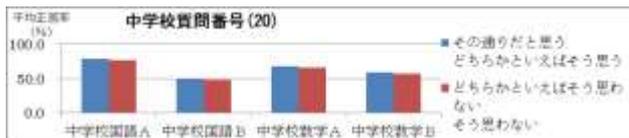
また、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を提示し、授業の最後に学習内容を振り返る活動を取り入れた1時間の授業の板書を写真にとりファイリングして共有するなどし、教員間で統一した授業の流れの共通認識を図ることも有効です。

① 授業の進め方について

○調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

〔質問番号(20)〕（「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

三重県：54.3%（全国：63.8%） -9.5



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れられましたか。〔質問番号(28)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

三重県：88.3%（全国：94.0%） -5.7



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか。〔質問番号(29)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

三重県：84.5%（全国：89.2%） -4.7

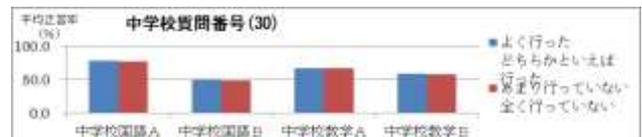


② 言語活動の充実について

○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、

各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。〔質問番号(30)〕（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

三重県：77.2%（全国：84.9%） -7.7



○言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか。〔質問番号(93)〕（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

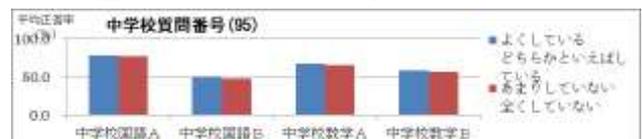
三重県：73.4%（全国：80.5%） -7.1



○言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。

〔質問番号(95)〕（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

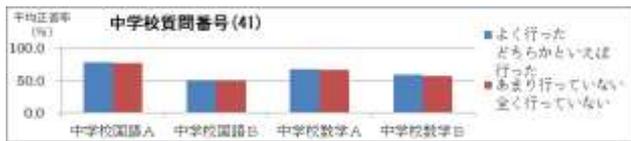
三重県：77.1%（全国：85.4%） -8.3



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。〔質問番号(41)〕（「よく行った」「どちらかといえば、

行った」と回答した割合)

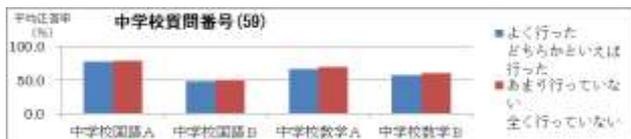
三重県：80.8% (全国：86.5%) -5.7



③ 国語の指導について

○調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。 [質問番号(59)] (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

三重県：66.1% (全国：74.9%) -8.8



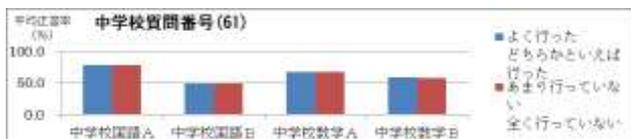
○調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。 [質問番号(60)] (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

三重県：51.2% (全国：56.0%) -4.8



○調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。 [質問番号(61)] (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

三重県：77.2% (全国：81.5%) -4.3

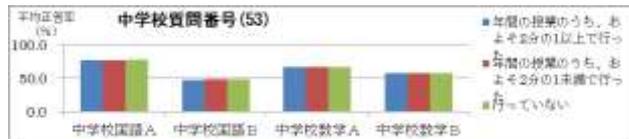


④ その他の指導について

○調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数指導を行い、習得できるようにしましたか。

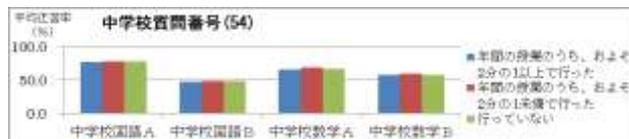
か。 [質問番号(53)] (「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

三重県：13.6% (全国：22.7%) -9.1



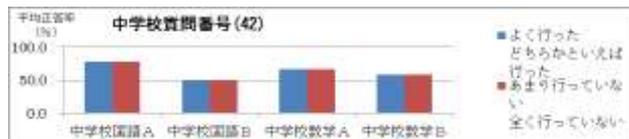
○調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。 [質問番号(54)] (「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

三重県：11.2% (全国：18.2%) -7.0



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。 [質問番号(42)] (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

三重県：73.5% (全国：79.6%) -6.1



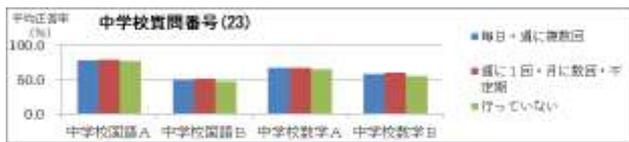
○調査対象学年の生徒に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。 [質問番号(43)] (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

三重県：56.1% (全国：63.4%) -7.3



○調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。 [質問番号(23)] (「基本的に毎日行った」「週

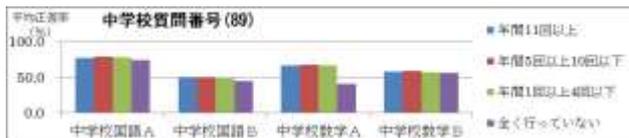
に複数回、定期的に行った」と回答した割合)
三重県：85.9% (全国：79.8%) +6.1



⑤ 組織的な研修や取組等について

○授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。 [質問番号(89)] (「1以上」と回答した割合)

三重県：27.2% (全国：21.5%) +5.7



○平成25年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。 [質問番号(50)]

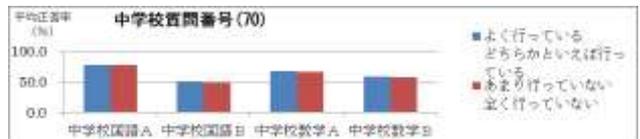
(「よく行った」「行った」と回答した割合)

三重県：71.0% (全国：77.2%) -6.2



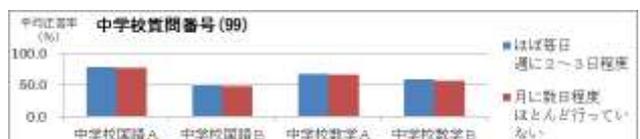
○教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか。 [質問番号(70)] (「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：64.8% (全国：72.1%) -7.3



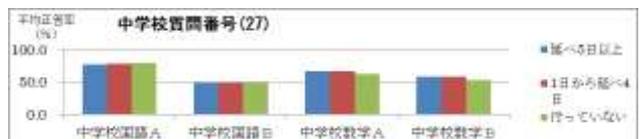
○校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。 [質問番号(99)] (「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」と回答した割合)

三重県：69.2% (全国：79.3%) -10.1



○調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか。(実施した日数の累計) [質問番号(27)] (「延べ5日以上」と回答した割合)

三重県：69.1% (全国：60.4%) +8.7



《家庭学習について》

(分析)

- ・保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行っている学校、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている学校、及び家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えている学校は、全国より少ない状況であり、平均正答率との関連も見られません。

(改善ポイント)

全国では、数学の指導として家庭学習の課題を与えた学校の方が、数学A・Bで平均正答率が高い傾向にあります。また、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた学校の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。このことから、課題を与えることやその内容について、生徒の実態を踏まえた各学校の工夫が必要です。

例えば、すべての生徒が意欲を持って家庭学習に取り組めるようにするため、必修問題とチャレンジ問題を併せた家庭学習、新聞記事やテレビのニュースを要約し感想をまとめて保護者等からコメントを聞き取る家庭学習など、各学校の工夫により生徒の学習

意欲を引き出す様々な取組が可能です。また、生徒が行ってきた家庭学習については、必ず点検するなどの見届けと励ましが必要です。

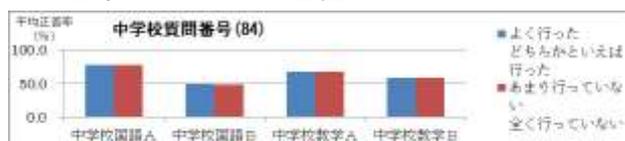
○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／数学共通)。〔質問番号(82)〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：81.5% (全国：85.4%) -3.9



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語／数学共通)。〔質問番号(84)〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：55.6% (全国：64.2%) -8.6



○調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語／数学共通)。〔質問番号(83)〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

三重県：71.6% (全国：76.9%) -5.3

